

漱石が

わたしたちに遺したものの



『漱石山脈』と東北大学 —法文学部草創期の漱石をめぐるネットワーク— 東北大学文学研究科教授 長谷川 公一

山形県生まれ。専攻は社会学・環境社会学・社会変動論。1999年の開館以来、阿部次郎記念館の運営を担当。2007年から「青春のエッセー 阿部次郎記念賞」の運営にあたり、現在同賞選考委員長。東北大学出版会理事として、大平千枝子『父阿部次郎』(1999年)、『阿部次郎とその家族』(2004年)(ともに東北大学出版会刊)の編集にあたる。エッセーに『『三太郎の日記』刊行百周年』『學士會会報』(No.904、2014年)ほか。2008年阿部次郎文化賞を受賞。



『漱石文庫にみる夏目漱石の魅力』

仙台文学館 学芸室長 赤間 亜生氏

1997年東北大学大学院文学研究科博士課程後期三年の課程単位取得退学。1997年4月から仙台文学館準備室に勤務し、資料調査・収集と、1999年3月の仙台文学館開館の業務に携わり、現在に至る。これまで担当した主な展示として、開館記念特別展「夏目漱石展—漱石文庫の光彩—」(1999年)、「ことばの地平—石川啄木と寺山修司」(2000年)、「宮澤賢治展inセンタード」(2004年)、開館10周年記念特別展「井上ひさし展〜吉里吉里国再発見」(2009年)など。

基調講演



「わたしの中の漱石」

茂木 健一郎氏

脳科学者。1962年10月20日東京生まれ。東京大学理学部、法学部卒業後、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻課程修了。理学博士。理化学研究所、ケンブリッジ大学を経て現在に至る。専門は脳科学、認知科学。「クオリア」(感覚の持つ質感)をキーワードとして脳と心の関係を研究するとともに、文藝評論、美術評論などにも取り組んでいる。

2005年、『脳と妄想』で第4回小林秀雄賞を受賞。2009年、『今、ここからすべての場所へ』で第12回桑原武夫学芸賞を受賞。2006年1月〜2010年3月、NHK『プロフェッショナル 仕事の流儀』キャスター。

著書は『脳とクオリア』(日経サイエンス社)、『生きて死ぬ私』(徳間書店)、『心を生み出す脳のシステム』(NHK出版)、『脳を活かす勉強法』(PHP研究所)など多数。

日時

会場

平成28年 **10月29日** 土

東北大学百年記念会館川内萩ホール
13:10~16:00(12:30開場)

お問い合わせ

東北大学総務企画部広報課校友係
(東北大学萩友会事務局)
TEL:022-217-5059(平日10:00~17:00)
FAX:022-217-5910
E-mail:alumni@grp.tohoku.ac.jp

▶その他、各種イベントを開催いたします。
詳しくはこちらをご覧ください。

<http://www.tohoku.ac.jp/hcd/>

東北大学ホームカミングデー | 検索





夏目漱石と東北大学のかかわり



日本を代表する文豪・夏目漱石。2016年は夏目漱石の没後100年、2017年は生誕150年にあたります。漱石が逝去してから1世紀が経ちましたが、漱石の作品は、今なお、その輝きを失うことなく、新たな時代を生きる人々に脈々と受け継がれ、そして愛され続けています。

さて、100年以上の長きにわたって人々から愛されてきた夏目漱石が、実は東北大学と深いかかわりをもつことは、意外と知られていません。東北大学には、漱石に師事し、その意思を受け継いだ人物、あるいは、漱石と親交の深かった友人など、様々な人物の「縁」が存在していたのです。友人を大切にすることで知られた漱石。その「縁」は、東北の地・仙台にも息づいているのです。

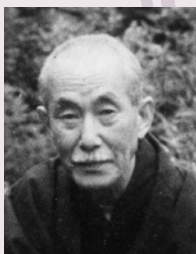
夏目漱石と東北大学をめぐる人々



阿部 次郎

(阿部次郎記念館提供)

山形県出身の作家、哲学者。漱石門下生の一人。1914年に発表した『三太郎の日記』は、青春のバイブルとして大正昭和期の学生に広く読まれた。1923年、東北帝国大学に新設された法文学部美学講座の初代教授に就任した。



小宮 豊隆

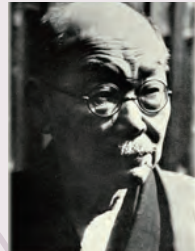
(東北大学史料館提供)

東北帝国大学法文学部ドイツ文学初代教授。現在、東北大学附属図書館が所蔵する「漱石文庫」は、小宮の尽力によるもの。夏目漱石の門下生として全集編纂に深く関わり、評伝『夏目漱石』(1938年)で日本芸術院賞を受賞した。



夏目 漱石

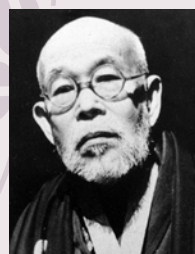
(県立神奈川近代文学館所蔵)



狩野 亨吉

(出版：安部能成編「狩野亨吉遺文集」(岩波書店、1958))

東京大学在学中に、英文学科在学中の漱石と親しくなる。交友関係は以後も続き、漱石の葬儀にあたっては友人代表として弔辞を読んだ。また、東北帝国大学初代総長・澤柳政太郎とも親交が深かった。東北大学の「狩野文庫」(狩野の旧蔵書)は、日本有数の和漢古典コレクション。



斎藤 茂吉

(斎藤茂吉記念館提供)

山形県出身の歌人。生の感動を表出した歌集「赤光」や「あらたま」で、大正昭和を代表する歌人としての地位を築いた。阿部次郎とは同郷で、生涯の友人でもあった。ふたりの友情を記念し、東北大学川内キャンパス内の「三太郎の小径」には、茂吉の歌碑が建てられている。



東北大学の宝 「漱石文庫」



東北大学附属図書館本館には、「漱石文庫」と呼ばれる、夏目漱石の旧蔵書、日記・ノート・試験問題・原稿等の自筆資料を集めた三千冊を超える貴重な資料が保管されています。文豪・夏目漱石がその生涯において、どのような書物を読み、創作の糧にしていたのかを垣間見ることができる、まさに東北大学の「宝」です。

東京で執筆活動をしていた漱石の蔵書が、東北の地に保管されることとなったその「縁」は、第二次世界大戦の頃に遡ります。

1916(大正5)年に漱石が亡くなった後、遺品は遺族の元に保管されていました。その貴重な遺品を保管するため博物館の設立も計画されていましたが、折あしく、日本は第二次世界大戦へ突入。空襲が本格化する中、せめて蔵書だけでも一刻も早く安全な場所へ保管する必要性が生じたところ、漱石の愛弟子であった東北大学附属図書館第五代館長、小宮豊隆の尽力により、東北大学附属図書館へ一括して譲渡されることとなったのです。1944(昭和19)年2月、仙台に移された漱石の蔵書は、翌年3月以降の東京大空襲の戦火を奇跡的に逃れることができ、現在も東北大学に保管されています。

ホームカミングデー当日は、東北大学附属図書館にて、「漱石文庫」の展示をご覧くださいことができます。東北大学としておきのコレクションをまのあたりにできる貴重な展覧会です。皆様お誘いあわせの上、ぜひご覧ください。

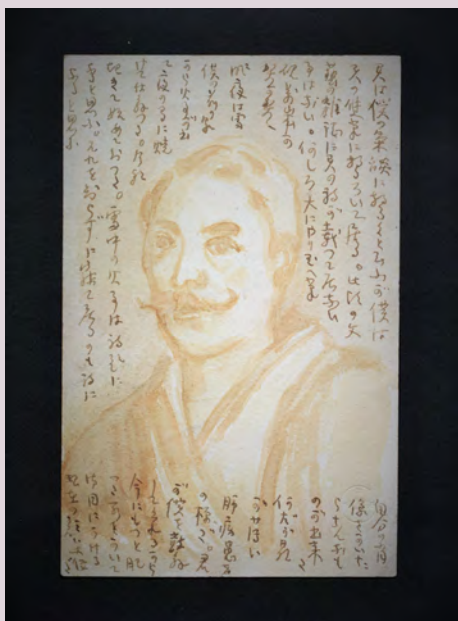
夏目漱石没後100年企画展 漱石文庫 ～文豪が遺した創作の背景～

開催期間：平成28年10月3日(月)～11月11日(金)

開催時間：10時～17時(会期中無休)

会場：東北大学附属図書館多目的室

入場：無料



▲土井林吉(晩翠)宛漱石自画像入りはがき
(東北大学附属図書館所蔵晩翠文庫)